

基本理念

医の心

患者さんの悩み、苦しみ、痛み
に共感する心

患者さんに慰めの手、いたわりの手が自然に出る心

患者さんのために尽くす心

患者さんに真実を伝えて納得
同意を得るように努める心

一、私たちは“地域医療支援病院”と

して、医師会会員ならびに各医療機関との医療連携をもとに、高い医療レベルを堅持、地域医療の向上に貢献します

二、私たちは患者の立場を尊重し、その信頼と期待に応え、誠実に“心ある医療”を心がけます

三、私たちは、変革する医療情勢に
対処しながら、地域住民の福祉・
保健医療サービスの確立に努め、
医療センター内外に積極的に関
動します

四、私たちは、職員としての「誇りと責任」を自覚し、つねに自己研鑽を重ね、互いに協力して、医療センターの発展に努めます

		診療科目	月	火	水	木	金	受付時間
外来診療一覽表	一般外来	脳神経外科	坪田・出来田			坪田・出来田		7:30～11:30 ※急患については 24時間対応
		外 科		吉仲・高田・坂田		原田	原田・吉仲・高田	
		整 形 外 科	大江・堀内		堀内・石松・高木		大江・山田	
		循 環 器 科	永吉		永吉・西		永吉・西原	
		消化器内科			坂井 (*1 馬見塚小泉)	中垣		
		代 謝 内 科	守田	守田	宮川	宮川	(再診のみ)	
		放 射 線 科		担当医				
		泌 尿 器 科	陣内	山中		野尻		
		呼吸器内科*3		担当医(熊本大学病院)			担当医(済生会熊本)	
	総合診療科	谷口	(再診のみ)	松本	鶴田	(再診のみ)		
小児科外来	小 児 科*2	水元 野中	野中 水元	野中 水元	水元 野中	水元 野中	8:00～11:30 13:45～16:00 ※急患については 24時間対応	
特殊外来*4	神 経 内 科	月 4 回 土曜日						予 約 制
	リウマチ膠原病科	第4月曜日・月2～3回土曜日						
	消化器内科	月 2 回 土曜日						

*1 消化器内科の水曜日は隔週交代での診察となります

*2 小児科は上段が午前担当医、下段が午後担当医の診察対応の表記となります

*3 呼吸器内科は非常勤で原則、午前中の受付・診察となります

*4 月・土曜日の特殊外来については、予約制となりますので、電話にて予約をお願いします



院内感染対策研修会（7月28日）

医療安全対策室 三田 由美子

2023年7月28日に聖マリアンナ医科大学病院感染制御部部長の竹村弘教授を講師として職員研修を開催いたしました。

今回の研修では、院内の職員だけでなく、オンデマンドで連携施設へ配信し、多くの方に参加していただきました。「withコロナ時代の感染対策」のテーマで充実した内容であったと考えています。

研修内容

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月に中国湖北省武漢市で流行が始まり、史上最大規模のパンデミックとなり、現在も完全に収束していません。聖マリアンナ医科大学病院では、2020年2月11日にダイヤモンドプリンセス号からの患者を受け入れ、同時に災害対策本部を設置し、病院全体が一丸となりCOVID-19の重症患者を受け入れてきました。

現在も、聖マリアンナ医科大学病院・横浜市西部病院・東横病院・川崎市立多摩病院の連携病院で毎週WEB会議を開催し、情報共有を行っています。

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行され、①入院時のスクリーニング検査の中止、②職員が濃厚接触者になった場合の就業制限（接触後2日目・3日目の抗原検査で陰性を証明）、③職員がCOVID-19に罹患した場合の就業制限（発症後5日以上かつ解熱後24時間）などが変更されました。ただし、入院スクリーニングでは無菌病棟への入室や生体腎移植を受ける側に限って、無症状患者の検査を保険適応で実施しています。また、濃厚接触した職員が発症した場合には、抗原定性検査キット（体外診断用医薬品、第1類医薬品）でのセルフチェックを実施し、検査陽性者の就業制限で特別休暇扱いにするために、セルフチェックの陽性結果に日付、氏名が入った写真の提出を行っています。

入院患者が発症した場合、発症者の個室管理、同室者のスクリーニング検査、5日間の新規入院制限、病棟スタッフは5日間N95マスク着用で勤務、患者・スタッフの発症者は即時検査を実施するようにしました。COVID-19入院患者の隔離解除も見直され、患者の免疫状態を考慮し判断できるフローが作成されています。

その他、感染対策として一般向けには不織布マスクが最も有効であり、医療スタッフにはサージカルマスクの着用を推奨されました。サージカルマスクは、BFE（細菌濾過率）とPFE（微粒子濾過率）が、レベル1で $\geq 95\%$ 、レベル2、3で $\geq 98\%$ となっています。医療者にとってマスクの意味とは、自分自身の防御であり、流行期にはできるだけ感染源にならない事と考えます。

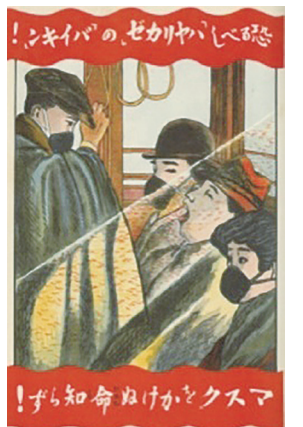
また、COVID-19に対する感染対策の基本は飛沫＋接触感染です。マスクだけでなく、手洗いや手指消毒、使用後のマスクやティッシュの処理にも気を配る必要があります。



N95マスクの着用は、吸い込む側では優位にウイルス伝播を制御し、吐き出す側が着用することで、吸い込み側がマスクをするよりも効果的にウイルス伝播を抑制することが証明されました。N95マスクの着用方法やPPE着脱の職員教育は、実習を含めて実施されています。

100年前のスペイン風邪のパンデミックでは、3年間で全人口の1/3にあたる約6億人が感染し約5,000万人が死亡したと言われています。日本でも約2,500万人が感染し約40万人が死亡しました。

当時のポスターでも、マスクの着用や手洗いが掲載されています。食事の場面や電車での感染伝播がわかりやすく描かれており、現在の感染対策と変わりがありません。日本人の公衆衛生の意識は当時から高かったことが考えられます。



感染の流行は繰り返す

インフルエンザが例年流行するように、感染症は根絶しない限り流行を繰り返し、感染対策は日々続けていく必要があります。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、感染対策の必要性が全世界で理解されました。これからも、新興感染症、未知なるウイルスや細菌の発症は起こると考え、2020年から体験してきた感染対策を一つの学びとして今後も継続していくことが必要だと考えています。

【自己紹介】

2023年4月より、天草地域医療センター医療安全対策室で勤務しております三田由美子です。

神奈川県川崎市の聖マリアンナ医科大学病院（以下大学病院）へ就職し、一般病棟やSCU、外来や画像診断センターなどを経験し、2007年に感染管理認定看護師を取得後、2011年から2020年まで大学病院感染制御部の専従看護師長として従事しました。感染制御部では、病院内を組織横断的に活動し、感染対策に関する対応や教育、コンサルテーション、他の施設や病院への感染対策ラウンドや研修、看護大学・専門学校への授業も行っていました。2020年4月に聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院（以下西部病院）で、新型コロナウイルス感染症の大規模なクラスターを発生したことで、西部病院へ派遣され感染制御室立ち上げメンバーとして活動を行っていました。2020年7月より西部病院看護部へ異動し、2023年3月まで業務担当副部長として活動しました。

西部病院はクラスター発生直後であり現場の混乱状況は想像以上でした。治る疾患で入院された患者さまが、新型コロナウイルス感染症の院内感染で尊い命を失ってしまったことは、今でも胸が痛みます。西部病院では、医療安全管理室や患者相談部門を中心に、亡くなった患者さまのご家族へのケアも行っていました。ご家族様との面談を繰り返し実施し、ご意見を真摯に受け止めていきました。また、職員の感染者や濃厚接触者が就業制限となり、感染制御室では、就業制限期間に職員（陽性者・濃厚接触者）への感染教育を行っていく必要があると考え、「感染対策の基本」である、手指消毒やPPEの着脱などの動画撮影を行い、e-ラーニングで受講し、感染対策に関する教育を全職員対象に実施しました。クラスターは、大学病院の協力もあり、5月末頃に収束となりましたが、「2度と起こさない」という思いが職員全員に浸透しました。

乳がん検診について

放射線部 渡邊 優花

乳がんについて

食の欧米化により日本で乳がんは急増しています。現在では女性の11人に1人が罹患しており、そのうち20%程度が死亡するといわれています。

また乳がんは女性ホルモンが強く関係しているため、40～60歳代で罹患率が急増しています。それに加え、日本の乳がん検診受診率は40%と他の先進国と比べて低く、先進国の中で唯一乳がんによる死亡率が増加しています。しかし、乳がんは早期発見できると95%が助かるといわれているため、乳がん検診は非常に重要です。乳がん検診はガイドライン上、40歳以上の方にマンモグラフィを2年に1度受けることを推奨しています。

マンモグラフィについて

マンモグラフィとは撮影台の上に乳房をのせ、圧迫板で圧迫し左右それぞれ撮影します。

乳房を圧迫するのには理由があります。1つは、乳腺、血管、脂肪の重なりを減らし、病変を発見しやすくするためです。もう1つは、被ばく線量を少なくするためです。マンモグラフィは痛みを伴う検査ですが、それはより正確に、より安全に検査を行う目的があります。

マンモグラフィにおいて、病変の鑑別には圧迫厚だけでなく乳房の構成も関係してきます。乳房の構成は人それぞれであり、乳腺実質の量と脂肪との分布によって脂肪性、乳腺散在、不均一高濃度、極めて高濃度の4つに分類されており、病変が乳腺に隠されてしまう危険性の程度を表します(図1)。マンモグラフィでは乳腺実質は白く、脂肪は黒く描出されます。腫瘍や石灰化も白く描出されるため乳腺密度が高いほど検出困難となります。

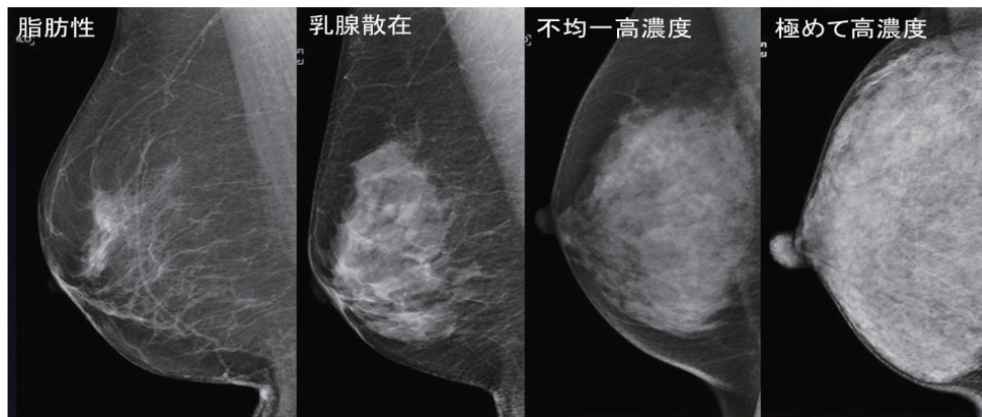


図1 乳房構成

不均一高濃度と極めて高濃度は通称デンスブレストといわれており、欧米人に比べ日本人に多いといわれています。デンスブレストは病気ではないので、治療の必要はありません。マンモグラフィだけでは判断が難しいことがあるため、補うために超音波検査やトモシンセシスを行う場合があります。

新規導入された当院の装置について

当院で使用しているSIEMENS社製REVELATION(図2)は以前の装置に比べ低線量、高画質の画像を提供できるようになりました。さらに、よりコンパクトとなり部屋全体の圧迫感も少なくなりました。また、従来の撮影に加え、デンスブレストにも有用性が期待されているトモシンセシスといった撮影もできるようになっています。圧迫時間が約25秒と長くなりましたが、被ばく線量は乳房の厚さにもよりますが約1.6mGyと低くなっています(全国平均2.4mGy)。現在当院では、外来の精密検査の方に対してのみトモシンセシスを追加しています。



図2 装置外観

通常の撮影のみでは高濃度乳房の場合、病変検出率が50%以下といわれています。トモシンセシスを追加することにより病変検出率の改善が期待されています。

従来の撮影法と比較し、トモシンセシスでは薄いスライスで画像が得られるため正常乳腺との区別や腫瘍や石灰化の詳細な位置情報を把握できるようになりました(図3)。従来の撮影法(図3-左図)でも十分画質は向上していますがトモシンセシス(図3-右図)ではより鮮明に描出されています。また、がんにより乳頭や皮膚の引きつれを起こすことがあり、トモシンセシスでは皮膚の辺縁もより鮮明に描出できます。

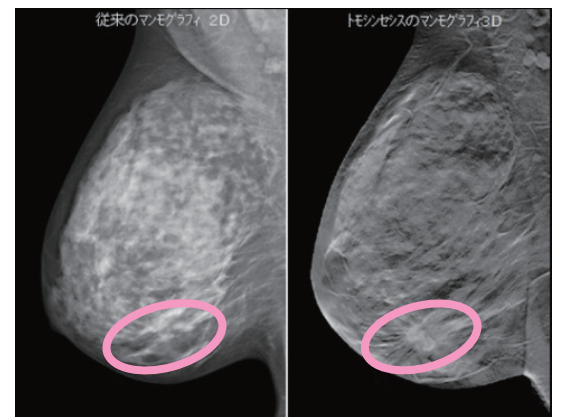


図3 SIEMENS提供画像

装置の更新に伴い、より低線量、高画質の画像を医師に提供できるようになったことで患者さんへのメリットだけでなく、読影の効率も向上しています。当院の放射線部としては、「検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師」の資格取得や「デジタルマンモグラフィ品質管理講習会」の受講、天草で唯一の「マンモグラフィ検診施設画像認定施設」の認定を取得しました(図4)。この認定は画質、品質管理、被ばく線量が基準値を満たし精度の高い検診を提供できると認められた施設にのみ与えられるものです。今後もわたしたちは撮影技術の向上だけでなく、女性技師全員が検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師の資格を取得できるように努めます。

より多くの方に乳がん検診を知っていただき、乳がんの早期発見につながることを願っています。検査を受ける前に不安な点等ありましたら気軽にお声かけください。



図4 認定証



ソフトボール部 県大会出場！

医事課 梶原 健護

ソフトボール部 (AMC Warblers) は、楠浦小学校グラウンドにて毎週木曜日に楽しく、のんびりと活動しています。現在20名ほどにもなる部員は所属する部署や年齢は様々で、若手・中堅・ベテラン、部署間の垣根を超えて賑やかな部活になっています。ソフトボールをしながらではありますが時には世間話、時には仕事の話をする関係性ができており若手からベテランまで気楽に活動できています。記憶に新しい侍JAPANの世界一の快挙や夏の甲子園で107年ぶりに優勝を果たした慶応高校などの影響もあり部員も増えつつあります。

また8月27日に開催されました、労働基準監督署主催による職場親善ソフトボール大会(天草支部大会)では準優勝という功績を残すことができ、県大会への出場権を獲得しました。日頃室内で業務をしており、太陽を浴びないせいか、酷暑の中での試合でしたので勝った喜びよりも試合が無事終わったことが嬉しく感じるほど部員全員へとへとでした。これも酷暑に加え、全試合、手に汗握る接戦だったからです。1回戦から前回大会優勝チームとの試合において、点の取り合いで最終回1点差で負けた状態で攻撃を迎えましたが、チーム一丸となりつなぎにつないで、最後はタイムリーヒットによる逆転サヨナラ勝ちという劇的な形で見事初戦を突破することができました。日曜の休みにも関わらず応援に駆けつけてくださった方の声援もとても心強く、力になりました。県大会をかけた準決勝では、これもまた1点を争う展開で最終回相手のランナーが返れば逆転サヨナラ負けの場面まで行きましたがチーム全員で守り切り何とか勝つことができました。ミスも出ながらでしたが全員でカバーし合い、ファインプレーが出ると全員で喜び合い、チームが一つとなった瞬間を味わうことができました。決勝戦では全員疲れ果てていましたが、声を掛け合いながら最後まで戦い抜くことができました。県大会でもAMCの合言葉でもある、「明るく・前向きに・力を合わせて」をモットーに部員全員で臨みたいと思います。

なかなか同じ職場に勤めていても部署間の交流などはこのような活動がなければできないものです。私自身もソフトボール部に入り所属部署ではもちろん、他部署の優しい上司の方と交流ができ、業務が遂行できているのもこの活動があったおかげです。同好会的な活動の仕方ですので仕事優先、家庭優先、気が向いたときに健康づくり、体力づくりの感覚で参加できるのもこの活動のいいところです。このような環境にも感謝をしつつ、業務の方にも確実に活かし、天草の医療に貢献できるよう努めて参ります。

編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されてから、5ヶ月が経とうとしています。少しずつですがコロナ前の生活に戻ってきているように感じます。しかし5類感染症に移行したとはいえ、残念ながらまだコロナ感染者数の減少には至らず、併せてインフルエンザも流行しつつあります。これからも気を緩めることなく、引き続き職員一丸となって感染予防に取り組んでいきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

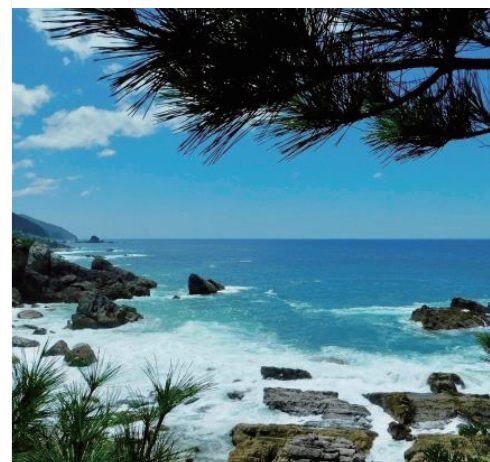
文責:新聞広報委員 清田 千草



職場親善ソフトボール大会



ナイタースローピッチ大会



講演

開会挨拶

天草地域医療センター 院長 吉仲 一郎 先生

がんの痛みに対する治療

天草中央総合病院 内科医長 熊野御堂 慧 先生

病気を抱えてもあなたらしく過ごすために

松本内科・眼科 副院長/天草中央総合病院 緩和ケア科
松本 衣里 先生

治療を支える社会制度

天草中央総合病院 地域医療連携室 山口 美貴 先生

緩和ケアと栄養

天草地域医療センター 栄養課 脇山 由佳利 先生

「今、ここで生きる」を支えたい！

緩くつながる地域ネットワークの立役者たち
訪問看護ステーションこころ 塚元 麻理子 先生

医療者とともに考える「生き甲斐」の処方箋

熊本大学病院 緩和ケアセンター長 吉武 淳 先生

閉会挨拶

天草中央総合病院 院長 芳賀 克夫 先生

日時

2023 10/22 (日)
10:00~12:30
(受付・入場 9:30~)

会場

天草市民センター ホール

座長

熊本大学病院
緩和ケアチームリーダー・皮膚科専門医
澤村 創一郎 先生

熊本大学病院 緩和ケアセンター
看護師長・がん看護専門看護師
安達 美樹 先生

お申込み方法

右の二次元コードもしくはメール・お電話にて、下記「お問合せ先」まで以下について明示の上、お申し込みください。

- ①ご希望の参加方法(会場・YouTube・どちらも)
- ②氏名 ③年齢 ④メールアドレス ⑤電話番号 ⑥住所

★お問合せ先★

熊本大学病院医療サービス課 がん医療連携担当

TEL: (096) 373-5993 メール: iyks-ganrenkei@jimu.kumamoto-u.ac.jp



熊本大学病院緩和ケアセンター 第10回県民公開講座

天草の皆さんに知ってもらいたい

もっと身近に緩和ケア